

新規団体受験、第117回銀行業務検定試験「税務3級」団体賞受賞

神奈川県医師信用組合
変化していく顧客のニーズに応えていくために

今回は、昨年10月24日に実施しました第117回銀行業務検定試験「税務3級」において、新規に団体受験としてお申込みいただき、かつ団体賞を受賞されました、神奈川県医師信用組合にお伺いしました。

神奈川県医師信用組合は、1925年有限責任横浜市医師信用購買組合として設立され、1930年に有限責任横浜市医師信用購買利用組合に改称、1937年保証責任横浜市医師信用購買利用組合に改組、さらに1950年に中小企業等協同組合法の施行により神奈川県医師信用組合として改組されました。

「医療業界における相互扶助」の経営理念のもと、神奈川県内の医師や医療機関との取引を通じて、神奈川県の医療に貢献している信用組合です。

今回、快く取材に応じてくださったのは、常勤理事統括本部長の須佐隆一さんと、総務部部長の朝野誠さんのお2人です。

●団体賞受賞について

最初に、新規団体受験として、初受験ながら団体賞を受賞されたことについて感想をお伺いしました。
受験に際して団体賞を意識していたわけではないので、驚いているとのことでした。受賞については社内報への掲載により職員に周知しており、今後も受験を推奨するとともに、受験する職員にはこれを励みにしてもらいたいとお話されていました。

●総合的なバックアップが好成績の要因に

今回、好成績を修められた要因についてお伺いしたところ、本部の準備スタッフや理事が率先しアナウンスメントを行ったこと、また、受験対策講座への参加など、職員の学習の支援に対しては、人材育成を最重要課題として捉えて取り組んできたことが結果につながったのではないかとのことでした。

組合として、具体的にどのような取組みをされたのかをお聞きしたところ、受験参考書購入の補助、受験料の全額負担、受験対策講座の開催など、受験のための各種支援や、そのほか試験受験のインセンティブとして、合格時に報奨金の支給などを行ったとのことでした。

こうした総合的な組合のバックアップと、職員がそれに応えてくれたことが好成績の要因ではないかとおっしゃっていました。

●反復継続した学習で個人賞受賞！

次に、税務3級を受験され、98点(全国2位)で個人賞を受賞された西尾陽治さんに、お話をお伺いしました。

西尾さんは、従来より税務に関する業務に携わっておられたとのことで、実務において必要な税務知識はすでに身につけていらっやったとのことでした。ただ、検定試験においては、幅広く総合的な知識も求められるということで、『受験対策シリーズ税務3級』、『税務3級直前整理70』や問題解説集を活用されたそうです。とくに『直前整理70』はとてもよくまとまった内容で、学習した知識の整理と試験対策に大きく役立つとの評価をいただきました。

具体的な学習方法としては、何度も参考書を読み、過去問題を繰り返し解かれたということです。日々の積み重ねが個人賞という結果につながったのでしようとおっしゃっていました。

●業域信用組合としての役割の変化

神奈川県医師信用組合は、業域信用組合(特定の業種の事業所およびその関係者を対象にした信用組合)であり、独特な経営基盤のもとで業務を行っています。医師信用組合は全国で19組あり、数人規模の組合もあるそうです。

神奈川県医師信用組合が対象としている組合員は、医師やその家族、診療所、病院が中心で、業務としては、医師会との連携による診療所等への融資、開業後の医師等からの預金等による運用の協力といった、医療業界の方々に向けた伝統的な金融サービスの提供がベースとなっているそうです。

ただ、顧客である医師の代替りなどによって、コンサルティング機能など、求められるサービスが徐々に変化してきているそうです。

●求められる人材像と今後の課題

顧客のニーズが変化している状況において、求められる人材像についてお伺いしたところ、人柄・人格がすぐれており、金融のプロであること、また、医療経営のプロとしても、知識とノウハウを兼ね備え、適切に顧客にアドバイスできる人材が求められているとお話されていました。

神奈川県医師信用組合は、店舗数などにおいては顧客にとって利便性の面で限定される側面がある一方で、預金の利子や融資の利息などでサービスを行うなど、ローコスト・オペレーションのメリットを生かした経営を行っているそうです。

また、従来からの集金業務などコストがかかる業務については、今後はインターネットバンキング等により負担を減らしつつ、コンサルティング業務など付加価値の高い業務と連携したサービスの拡大を目指して取り組んでいらっやるとのことです。銀行業務検定試験の導入を決められたきっかけのひとつとして、これまでの業務中心の人事評価に、コンサルティング機能の充実を見据えた知識面を加味することで、職員の能力向上を促すという狙いもあったということでした。

●今後の展望について

最後に、今後の展望についてお聞きしたところ、まず、税務3級と財務3級については融資・渉外担当の職員を中心に取得を推奨していくとのことでした。

また、他の種目についても検討中ではあるものの、受験を希望する職員がいればサポートをしていきたいと考えていらっやるとのことでした。

そして、そういった取組みを通じて職員のレベルアップを図り、変化していく顧客のニーズに応え、より信頼される金融機関を目指していきたいとお話くださいました。

(お忙しいなか、取材に真摯にご対応くださいました須佐さん、朝野さんに心より感謝申し上げます)



▲神奈川県医師信用組合 本店



▲個人賞を受賞された 西尾氏